

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070300621
法人名	有限会社 ほうらい
事業所名	グループホームほうらい小芝
所在地	福岡県北九州市戸畑区小芝1丁目6-10
自己評価作成日	平成27年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成27年12月7日	評価結果確定日	平成28年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当グループホームは、2ユニット16名という通常よりも少ない定員での運営をいかして『ゆっくり、のびのび、楽しく』を基本理念とし、認知症の高齢者の方が、穏やかに健康で明るい生活を送れるように支援しております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>中学校や協力医療機関にも程近い住宅地の中に、3階建ての2、3階部分に位置する「ほうらい小芝」が在る。2ヶ月に1回開催される運営推進会議には、複数の家族(4~6名)の出席を得ており、日ごろから意見の言いやすい関係づくりに配慮し、開かれた事業運営に努めていることがうかがえる。安定している職員体制の中で、経験豊富な職員や介護福祉士の有資格者も多く、入居者の方々の馴染みの関係性が築かれている。職員個々のスキルアップや専門職としての研鑽に努めながら、暮らしの場所として入居者本位に基づくサービスの提供に努め、自然体での関わりが印象的な事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が、日々の生活を『ゆっくり・のびのび・楽しく』過ごせるよう、個人の意思を尊重し、レクリエーションへの参加を促している	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念を掲げ、安定している職員体制の中で共有が図られている。新規採用時には理念について説明し、日々の取り組みを通じて実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・南沢見地区年長者ふれあい会参加 ・戸畑祇園山笠・子供山笠 ・出張握り寿司・天ぷら ・ボランティア(歌・マジック・フラダンス) ・高生中学校介護体験学習	地域の年長者ふれあい会や餅つき、廃品回収への参加を通じて、地域の方々をつながりを持っている。また、ボランティアの方々の来訪する機会も多い。中学校の体験実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や電話での相談等でご本人の状態にあったアドバイスをやっている 又、ボランティア等の受け入れを積極的にやっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域活動、ボランティアの受け入れをしている	運営推進会議は、複数の家族(4~6名)、民生委員、地域包括支援センター職員の出席を得て、2ヶ月に1回開催されている。民生委員の方より地域情報が届けられ、行事参加等に結び付けている。運営状況やヒヤリハット、事故報告等が行われ、意見や提案を検討し、運営への反映に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議により、当事業所の実情やケアサービスの取り組みを報告し、区担当者からアドバイスを受けている	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ている。介護保険制度の改正について情報提供を受けたり、不明な点の問い合わせや困難事例の対応についてアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングで無意識に拘束にあたってはいないかの、現状を確認しスタッフ間で指摘できる環境をつくっている 不審者の侵入があった為、1F非常口は施錠している。(警察の指示)	2、3階部分に位置する各ユニットの玄関やベランダ出入り口等の施錠は行われていない。言葉や対応による抑制についても意識を高め、振り返る機会を持っている。家族とも共有認識を図りながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々スタッフ同士の行動について、確認指摘するようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している為、ミーティング、レジメ等で説明を行っている。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、成年後見人の方の訪問を受け、支援の過程を通じて学ぶ場面も多い。資料を整備し、必要時の情報提供が行われている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書・利用料金等を時間をかけ納得して頂き誤解等ないように努めている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者については、日々の小さな変化を感じ取る為、談話を多くするよう心掛けている。家族については、運営推進会議、面会時に意見や要望が無いか問うようにしている。	日々の来訪時や運営推進会議、家族会等を通じて、家族意見の収集に努めている。火災時の対応や制度改正等について家族の意見が出され、運営推進会議にて説明が行われている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで、スタッフの意見、提案を聞き入れている	夜勤者以外全員参加を基本とするスタッフ会議を毎月開催し、職員の意見や提案を聴取している。長期に勤務している職員が多く、業務改善や備品購入等に関する活発な意見が出され、運営への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の調整には、話し合いを行い、連絡報告を徹底している。 働きやすい職場にする為、環境、条件の整備に努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	スタッフ個々が能力を発揮して、勤務出来るよう、介護福祉士の資格取得を勧めている。その結果資格取得者が増えている。 未経験者の採用も積極的にしている。	職員体制は安定しており、募集をする際には、人柄ややる気を重視し、年齢や性別による排除は行われていない。面接時には入居者の方々の意見も参考にしている。20代から60代までの職員が勤務し、経験豊富な職員や介護福祉士有資格者も多い。持ち回りで講師を務める内部研修を実施し、似顔絵の得意な職員はその能力を発揮する機会がある。有給や産休の取得に向けた配慮も行われている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングでスタッフの意識を高めるようしている	権利擁護や接遇、コンプライアンスの確保等の研修参加、また職員ミーティングにて振り返る機会を持ちながら、人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの希望によりスタッフの研修(育成)を行っている。 ミーティングでスタッフが議題をあげ、発表する機会を設け実施している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人が運営する、介護付有料老人ホームと地域の同業者との情報交換を行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	少しでも早く慣れて頂く為に、コミュニケーションを図り、些細な事を見逃さないよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会等にグループホームに来られた際に現状報告を行い、その時に要望等を伺うようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本的に、グループホーム内にてのサービスで対応を心掛けている。 どうしても、当ホームにて対応が難しい場合には、外部のサービス対応に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や、洗濯物の片付け等を一緒に行い、信頼関係の構築している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的に行事に参加していただけるように声掛けを行っている。 また、「おたより」で利用者の生活の様子をお知らせし、近況を知っていただくことによりご本人様とホームとの関わりを築いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事を行う際には、ご家族様や知人の皆様に声掛けを行っている	居室にテーブルセットを用意されている方もおり、家族や知人の来訪をともに歓迎している。家族との連携による行きつけの美容院や商店街の利用、地域の伝統行事である戸畑祇園山笠見物等、馴染みの関係継続に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、出来るだけホールに出てきてもらい他の入居者様や職員との関わりを多く持ってもらえるように心がけている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設、病院へ移動した際には、面会等へ行き、話をさせて頂いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様や、本人様と話し合いを行い希望に沿った方向でサービス決定を行うようにしている。	日々の言葉や表情の変化、仕草等を大切にとらえ、職員間で共有しながら思いや意向の把握に努めている。長く勤務している職員も多く、馴染みの関係性の中で、把握している情報も多い。	生活歴を現在の暮らしと照らし合わせ、個別の支援に結び付けようと取り組んでいる。支援の根拠となる、生活歴や得意な事、趣味活動等をアセスメント情報に加えていくことが期待されます。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主に、ご家族様より生活歴や生活環境についての話を聞かせて頂いている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い、それぞれの利用者のケアプランに沿ってケアを行っている。体調の変化は記録を行い、情報共有を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員・ご家族様より意見を聞き、必要な場合には、担当者会議を開催し、現状に即した計画を作成するように心がけている。	本人、家族の意向を踏まえ、職員間の協議を経て介護計画を作成している。日々のケアプラン実施表や毎月のモニタリング・評価、カンファレンス等を通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討を行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況と異なっている場合には、記録の備考欄に記入を行う。また、申し送りノートに記入を行い、情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の意思に沿えるように、散歩やレクの実施を心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練や行事の際に近隣の方に声かけを行い、交流を図っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師との情報共有時に、看護師の判断にてかかりつけ医に連絡を行い指示をもらっている。必要な際には、受診を行うか往診にきていただけるような体制を取っている。	入居時に、かかりつけ医について確認を行い、家族との連携を図りながら受診を支援している。また、協力医への受診や往診時には看護師が同行し、往診ノートにて情報共有を図っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは、朝の申し送りにて情報共有を行っている。早めの対応にて、受診や看護の対応を行っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、ソーシャルの方と連絡を取り現状の把握に努めている。 日常的に連絡をとり(居室の空き等にて)関係づくりに努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けては、まず入居の際にお話しをさせて頂いている。 重度化した際に再度、今後の方針についてご家族様との話し合いの場を設けている。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、指針をもとに事業所としての体制や方針を説明し、意向確認及び同意を得ている。状況の変化に伴い、その都度話し合いを行い、法人内の連携を活かした支援も含め、方向性を共有している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修により、初期対応の研修を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、夜間、日中を想定して行っている。近隣の住民の皆様にも訓練の際に声掛けを行い、非常事態の際のお手伝いをお願いしている。	年2回、消防署の指導も受けながら、入居者全員参加にて昼夜を想定した避難訓練を実施している。2、3階部分に位置しているため、消防より避難方法等について指示を受けている。連絡網の確認訓練も行われ、隣家の方や町内会長の協力を依頼している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや態度に気を配り、入居者の自尊心や誇りを傷つけないようにしています、又は排泄時のパット交換やトイレ誘導等でプライバシーや自尊心を傷つけない様配慮している	権利擁護や接遇等の研修に参加し、意識を高めている。時には言葉使いや対応について、入居者の方のアドバイスも得ながら、振り返る機会を持っている。一日の過ごし方や居場所の確保、生活習慣の継続等に留意し、個別の支援に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の趣味、嗜好を把握し、それにそって問いかけるように支援している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や精神面を観察し、スタッフ間で情報を共有し、その人にあったサービスを提供している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問カット契約で入居者様の希望を伝え、入居者様がオシャレを楽しめる様にしている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で食事の準備、後片付けや食器洗いを一緒に行っている。共に生活をする事で心の交流を図り、情緒の安定に努めている	嗜好調査を実施し、バランス等に配慮しながらメニューに反映している。通常は食材業者も活用し、行事の際は入居者と共買い物に出かけている。また、食事の準備や後片付けを、希望や状況に応じて役割として担ってもらっている。出張握り寿司や天ぷらを楽しむ機会も継続されており、好評を得ている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量のチェック、食事量のチェック、血液検査の結果、毎月体重測定をし増減の確認し、医師へ相談、指導があれば補助食品にて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをし、訪問歯科で定期的に検査を受け、スタッフは指導を受け、入居者様のケアを行っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、個々の排泄パターンを把握し声かけ誘導を行っている	排泄チェック表を作成し、個別の状況やパターンの把握に努め、サインを見逃さないようにしながら、トイレでの排泄や失禁の減少に結び付けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、朝の体操、生活リハビリ等で体を動かし、食事面では、ヨーグルト等で腸内環境を整えるようしています		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の入居者の希望に合わせた入浴時間や回数に添えるように努めている 菖蒲湯、ゆず湯など季節柄に合わせた入浴法を取り入れている	毎日のように入浴準備を行い、希望や体調、状況等に応じて、柔軟な入浴支援に努めている。拒否される方には、介護計画の中にも位置付けながら、タイミングやアプローチを工夫し、無理強いとならないよう配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後から就寝までの時間で、暖かい雰囲気を作り安心していただけるよう、会話、ふれあいを大切にしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは調剤薬局からもらった薬の説明を確認し、薬の変更があった時は申し送りによりスタッフが把握出来る様にしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションにおいて、楽しむだけではなく、順位を付けるようなレクを取り入れ(トランプ、ビンゴ等)感情を表し意欲を引き出せる様支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の体調に合わせ、ゴミ出しや、ベランダでの日光浴、近所の公園へ散歩、買い物等行っている	少しずつ重度化へと移行する中で、外出の機会は減少しているが、ベランダでの体操や日光浴、近隣の公園への散歩、家族との連携による行きつけの美容院の利用、商店街での買い物等に出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の金銭管理が出来ない為、ホームで管理を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じ、電話の取り次ぎや対応を行っています		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分には、季節を感じられる掲示を飾り、面会者にもすぐに目につく場所に写真を掲示し、思い出を共有出来る様にしている	共用空間には、季節や行事に応じた飾りつけが施され、職員の描いた似顔絵も掲示されている。程よい距離感と賑やかな雰囲気の中、それぞれの方の居場所が確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール・廊下・洗面所・エレベーター前等色々な場所に座れるようにしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の使い慣れたもの、本人が希望するものを持参して頂き、安全に動けるよう、配置している	テーブルセットやソファ、馴染みの椅子等の家具や、テレビや仏壇が持ち込まれ、動線の確保にも留意しながら、居心地良く、安心して過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すり、段差のない廊下、介助用トイレ(手すり付き)等安全に生活が送れるよう支援している		